

# 20190610 ササユリについて

ササユリは三谷での重要アイテム(A表対象)として観察記録を続けているが、2018年度に、特別重点観察アイテムとして取り上げ、一年間の克明な経時変化記録を残している。

## 1. 奈良県レッドデータブックでの説明

奈良県では希少種に分類されている。本州、四国、九州に分布する日本固有のユリである。6月中ごろに人里近い耕作地や森林の縁辺などのササ生育地に、長さ10～15cmで淡紅色の花を開く。

奈良県でも、人里に広く自生していたが、農地整備や農業の機械化によって減少し、加えてシカやイノシシの食害を受けて生育地は少なくなっている。奈良市の率川・いさがわ(三枝・さいぐさ)神社の祭事に供えるユリは自生のものが少なくなり、最近では栽培されていると聞いている。こうした状況では管理体制が崩れると急速に消滅することがあるので、十分注意をする必要がある。

## 2. ササユリの特徴

- ①花 花びらは6枚、1～3輪が多い。(多いものは9輪までの記録がある。)つぼみは茎に直角につき、開花すると、日光の当たる方向を向く。開花は5日間くらい。良い香りを放つ。濃いピンクから白色まで個体差がある。花被片の長さは8～15cm。短筒形。花粉の色は赤褐色。6本の雄しべがある。
- ②葉 ササに似ている葉は交互についている。葉幅は3～5cm。葉の長さは13～19cmの披針形。葉に光沢があり、光を浴びると反射する。葉はやや厚い。
- ③根 ササユリの根は上下に分かれていて、上の根では肥料を吸収し、下の根では水を吸収する。乾燥には比較的強いが、排水の悪いところでは育ちにくい。
- ④背丈 80～160cmで葉っぱは30枚程度つく。
- ⑤球根 球根(鱗茎・・・葉の変形した鱗片のかさなりあったもの)は卵型で白色か淡黄色。重さはかなりばらつきがある。茎の地中部には鱗茎との間に、その年の根を出す。鱗茎はでんぷん質。下根の長さは10～20cm。鱗茎は地下部にあって栄養を蓄積し、肥厚化した葉で芽などを保護する役割をもつ。
- ⑥種子(朔果)1袋に200～250粒。10月ごろに完熟する。雌しべの子房が成長したものが朔果である。1粒4～6mgで淡黄色。小さな種子から芽が出るまで1年かかる。秋に実ったササユリの種子は翌年の秋に地下で芽を出すのが、地上に出葉するには、もう1年かかる。生育は遅く、実生種子から10年以上でないと開花しない。
- ⑦自生地 山地の草原や明るい森が好きだが、西日を避ける半日陰を好む多年草。成長して花を咲かせるためには、数年間は地面まで光が当たる状態が継続される必要がある。

## 3. ササユリの成長(ササユリの栽培)

- ①小さな種から芽が出るまで1年かかる。  
秋に実ったササユリの種は翌年の秋に地下で芽を出す。夏の暑さ30日あまり、冬の寒さ20日余りを体験しないと発芽しない。(翌々年の春に発芽)
- ②米粒大の球根  
秋に芽を出してから春が来るまでの間に地下では小球が育っていく。光不足時の蓄積エネルギーの役割を持っている。
- ③初めて地上に芽を出す。  
種をまいてから1年半後の4月上旬に、初めて地上に芽を出す。良好なものはその秋には4枚の葉をつけるまでに成長する。梅雨時の病気や夏の夜はナメクジの標的にされる。
- ④直径1cmになるまで2年  
地上部の葉が3～4枚のころは地下に3～4枚の鱗片があることを示すが、ここまでにはほぼ2年かかる。
- ⑤葉の面積で光合成

種より2年半後の春、2回目の地上発芽。一回目の葉も2～3倍の大きさになる。葉の面積で光合成をカバーしていく。

#### ⑥育てた3年目の球根

鱗片は分厚くなり、5片玉くらいに成長するが、自然球は薄い鱗片のあつまりで、光や肥料が存分に吸収できる栽培物との違いがわかる。

#### ⑦5年目にササユリの晴れ舞台

種から5年(4年7か月)4回目の地上発芽はササユリの晴れ舞台である。これは栽培という最高条件の結果である。これに対して厳しい気温、無肥料に近い土壌、少ない日光などの自然条件では10年以上かかってやっと花を咲かせることができる。

#### ⑧受粉すると朔果が膨らむ。

受粉すると散る時期が早まり、朔果と呼ばれる種子が膨らんでくる。自然では朔果が多くつきすぎると翌年には花をつけなかったり、花数を減らしたりして、自らを保護する。

#### ⑨種子の乾物

本棚のようにぎっしり並んだ種子は、朔果という状態で完熟した種子から水分を向かれた乾物にかわる。

#### ⑩整然と収納された種子

朔果に整然と収納された種子は6列に部屋わけされている。やがて風任せの旅立ちをする。

### ササユリについての覚書

ユリは球根からといわれるが、種子からだとも10年くらいかかるとか。メシベが袋状になって乾燥する。自然界ではこの3角形の種子が飛び散る。



- 出所
1. 奈良県レッドデータブック
  2. ササユリ研究博物館(伊賀市)資料(ネット)
  3. 愛媛県レッドデータブック
  4. 姫路市家島のササユリを守り育てる会資料

以上